

「食べ物を調べよう」 ～地産地消の オリジナル弁当を作ろう～

【関連のある SDGs の目標】





【単元の目標】

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考える活動を通して、郷土の良さを再確認する。また、課題解決に主体的に取り組み、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考えていく。
- ・ふるさと学習発表会、オリジナル弁当発表会を開き、自分たちの活動のまとめとし、お世話になった方々への感謝の気持ちを伝える中で、表現する力を高める。

【連携諸機関・人物】

廿笑応援団
J A 佐伯中央 久保りか様
阿品台西小学校 川尻 花恵栄養教諭
平良小学校 吉山 由衣栄養教諭
株式会社 A & C 木本雄太様

◆学習活動の実際（全70時間）

| 学習活動 | 他教科等との関連 |
|--|---|
| <p>〈課題の設定〉 お米について調べよう 〈バケツ稲を育てよう〉…5月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J A 佐伯中央の久保さんの指導のもと、バケツ稲を育てながら、収穫後の米の活用法について考えた。 <p>〈お米について調べよう〉…6月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の栄養や調理法・米作りの歴史や道具の変遷、世界の米の種類や料理の違い、米という漢字の由来や米に関わることわざ、稲の成長の様子や水田の環境への影響など、様々な切り口から米について一人一人がテーマを決めて調べたことを新聞形式にまとめ、発表した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>6月7日 バケツ稲作り …代掻き・苗植え</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>7月～8月 お米について …調べ学習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>バケツ稲作り …夏休みの水やり</p> </div> </div> | <p>【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」で学ぶ、「国民の食生活を支える米作りについての学習」を、「米作りについて実践を通して学ぶ活動」に関連付けた。</p> <p>【国語科】「新聞記事を読み比べよう」で学んだ「書き手の意図を考える学習」を生かして、「自分の編集の意図が伝わる見出しの付け方や写真の活用法を考えてまとめる活動」に活用した。</p> |
| <p>〈課題の設定〉…9月初旬 地産地消のオリジナル弁当を作ろう！ 〈活動の見通しをもつ〉…9月初旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫する米の使い道を、児童が話し合って決めた。 ・地産地消のオリジナル弁当を作るための課題を出し合い、仕事分担を考えた。 ・自分たちの目標と、弁当の名前を決めた。 <p>→ご飯、肉、魚、貝、野菜1、野菜2、デザート of グループに分かれる。 →パンフレット、包装紙担当を立候補で決定した。</p> <p>〈廿日市産の食材を調べる〉〈料理のテーマを決定する〉…9月中旬～下旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の食糧生産についての学習を踏まえ、地産地消の考え方を取り入れた料理案を考えていった。 ・料理の形や材料、ネーミングに生かすため、校区の史跡・歴史等を調べた3学年時の学習内容を振り返ったり、保護者へインタビューをしたりして必要な情報を収集した。 <p>〈弁当に入れる料理を決定し、分担を決定する〉…9月下旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの料理を決め、料理名、材料、作成順等を決定した。 ・食育授業で学んだ、主食・主菜・副菜等のバランスを考慮に入れた。 <p>〈弁当に入れる料理のレシピを作る〉…9月～11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランス、彩り、価格等の視点から、料理を考え、修正を加えながらレシピを作っていた。 →クラスのアレルギーのある児童に対応したメニュー作りの工夫を行った。 ・弁当の価格を設定し、人件費等がかかることを考慮に入れて材料を吟味した。 | <p>【社会科】「これからの食料生産」において、「我が国の食料生産は、国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていること」を実感させる目的で、「地元産品を活用したメニューを考案する活動」に関連付けた。</p> <p>【社会科】「多角的に思考・判断・考察する力」を、「調理を通して環境、食糧の安定供給を実現する地産地消について考えていく活動」に関連付けた。</p> <p>【3年生社会科・3年生総合的な学習の時間】 「わたしたちの市のようす」で学んだ地元の産品や、の「魅力発見！廿日市」で取り組んだ「廿日市の史跡や名産品を発見する活動」を、「史跡や歴史にちなんだ料理を考案する活動」に関連付けた。</p> |



食育授業
…栄養のバランスのとれた食事をしよう

9月6日



オリジナル弁当
レシピ作り

9月～11月

〈弁当レシピ検討…栄養教諭による指導〉…11月6日
・栄養教諭により、児童の料理案へのアドバイスをいただいた。



バケツ稲作り
…稲結れの原因を探る
…脱穀・精米体験

10月23日



弁当レシピ
検討
…栄養教諭による指導

11月6日

〈弁当の検討会を開く〉…12月4日
・弁当販売を委託する、株式会社A&Cの木本さんと、第1回目の弁当の検討会を行った⇒地産地消の観点は、レシピ上押さえておきたいことを伝えた。また、児童がお弁当の中で改善してもらいたい所を伝えた。



12月4日
弁当の検討会
…弁当会社との協議

〈ふるさと学習発表会の練習を行う〉…11月～1月
・弁当の工夫やアピールポイントをふるさと学習発表会の発表用にまとめ、言い方や映像の効果的な表現の工夫を行った。

〈パンフレット、包装紙を作成する〉…10月～1月
・弁当の工夫やアピールポイントをまとめたパンフレットを作成した。
・弁当の包装デザインを考え、作成した。



〈ふるさと学習発表会の動画作成〉…1月25日
・1年間の学習をまとめ、自分達のお弁当をアピールするため、動画撮影を行った。



〈弁当感謝祭の計画を立てる〉…1月～2月
・感謝を伝える会の目標を確認し、目標や招待する方々、会の流れを考えた。
・分担に沿って準備、練習を行った。

〈自分達の考えたオリジナル弁当の試食〉2月10日



〈弁当の発表会・感謝祭を行う〉2月19日
・廿笑応援団等、お世話になった方々を招いて弁当発表会・感謝祭を行った。



感謝祭



お礼の手紙

〈弁当販売勉強会を行う〉…3月12日
・株式会社A&Cの木本さんに、販売の際の心がまえや注意点を教えて頂く。

〈弁当販売作戦を行う〉…3月22日・23日・24日
・廿日市小学校職員玄関前にて、弁当を販売する。(各クラス分担で計3日)

→作ったパンフレットやポスターを掲示し、当番制で販売を行う。
→販売体験を通し、これまで関わっていただいた方々や買ってくださる方々への感謝の気持ちをもつことをめざす。
☆弁当引き渡しの時間の都合のつかない方用に、株式会社A&Cでの販売も行った。
☆弁当注文については、トラブル防止のため株式会社A&C様に直接電話していただく方式とした。



販売バージョン
弁当

【学級活動】「食生活を見直そう」
【家庭科】「おいしい楽しい調理の力」で学んだ「安全と衛生に気をつけて調理をする力」を「オリジナル弁当の調理計画作成活動」に活用した。

【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」、3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫を学んだ。生産の過程で様々な費用がかかること、輸送に費用がかかることなどを取り上げ、消費者の需要にこたえる生産や運輸の工夫に気付く学習を踏まえ、弁当の価格の設定について考える活動に結び付けていった。

【家庭科】「食べて元気！ご飯とみそ汁」で学習した、「毎日の食事を振り返り、バランスのとれたよりよい食生活を考える学習」を、「栄養バランスを考えた弁当の材料を考える学習」に関連付けた。

【社会科】「環境を守るわたしたち」の環境汚染から健康や生活環境を守るためのわたしたち一人ひとりの努力や協力の大切さを考えようとする」という目標に関連付け、環境に良い調理の方法も学び、環境保全を考えた活動に高めていった。

【家庭科】「めざそう買い物名人」での「身近な物や金銭の計画的な使い方、目的に合った物の選び方や買い方について考える学習」に関連付け、生鮮食品の旬や価格の変動についても学びを深めていった。

【国語科】「和の文化を受けつぐ一和菓子を作る」で身に付けた「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする力」を「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【図画工作科】「心のもよう」で身に付けた「自分の思い描いたイメージが表れるような形や色を考えて表現する力」を、「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、活動の紹介や弁当販売の売PRに生かす。

【キャリア教育】お弁当を売る活動を通して、学校や地域の一員として、自らの役割を果たし、職業に真摯に向かう態度を培う。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、企業の担当者に教えて頂いたことと合わせ、販売に向けて自ら工夫するところを考える。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、弁当の販売PRに生かす。

【社会科】3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫をについて考える活動に結び付ける。

| | |
|--|--|
| <p>〈1年間の活動の振り返りを行う〉…3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、成長できたことを文章にまとめ、交流する。 | |
|--|--|

| 〈児童生徒の感想・振り返り〉 | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲が枯れて、残念だった。農家の方々が苦勞してお米を作っておられることが改めて分かった。お米を残さず大切に食べていきたい。 ・日本の文化は、稲作やお米がからつくられたと分かった。お米を食べることで文化を守っていきたい。 ・自分の考えた料理をみんなで考えることができ、嬉しかった。家で作って食べてみると、おいしかった。 ・バケツ稲作りでとれたお米を、お弁当の料理に使って、みんなに味わってもらいたい。 ・あなごめしやかきだけでなく、桶寿司など廿日市の名物料理を知ることができた。ふるさとをもっと好きになってほしいと考えて、私たちもお弁当を作った。 ・廿日市の食材は、おいしいものがたくさんあるので、これからも地産地消を考えて家でも食べてみたい。 ・お弁当を考えるのは楽しかったが、細かいところまできちんと決めていけないことが分かった。 ・感謝祭を計画する中で、改めてたくさんの方々にお世話になったことに気付いた。 ・店で売られるまでに多くの方が働いておられ、品物が工夫や努力で作られていることが分かった。 ・自分たちの（考えた）お弁当を、お弁当屋さんで作ってもらって完成していて、うれしかった。 ・自分たちのお弁当のよさをみんなに伝えたい。廿日市の名物としてみんなに広めたい。 | |

| 〈効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について〉 | 〈児童生徒の変容〉 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の総合的な学習の時間の学習を想起させ、廿日市地区の史跡や名物を料理のテーマにする点を徹底した。 ・感謝祭を最終的な活動のまとめに設定し、活動が多くなるとの支えで行われてきていることに常に立ち返らせながら活動を進めた。 ・バケツ稲作りの、稲への水やりや害虫駆除、脱穀や稲刈りの作業を体験させた。稲が枯れたことから、農家の苦勞についても目を向けさせ、自らの食生活について振り返る活動、米についての調べ学習を行い、普段の自分の生活や意識について振り返り、考えを深めていけるよう留意した。 ・地元で生産されている食料品について、社会科の学習と関連付けて考えさせ、電子黒板で画像を提示しながら生産者の思いも伝えていくよう留意した。 ・児童自らのレシピ作りに時間を割き、保護者に、懇談会や通信を通して家庭での調理体験を増やしていただけるようお願いして自らの体験で改善を行っていった。 ・課題を高いレベルに設定し、児童同士の対話的活動を中心に活動を進めていく中で、話し合いの進め方、出された意見への評価を通して方向性を示す指導を徹底した。 ・販売に向けた企業との連携が実現し、販売に向けての課題発見解決学習を児童主体で行っていけるよう留意した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・廿日市校区の良さを再確認し、料理という形に表現することで、郷土に対する愛着が深まった。 ・廿笑応援団の方々やJA佐伯中央の方々への感謝の言葉が、自然と出るようになった。 ・自分の食生活を振り返り、「感謝して食べる」、「残さないように食べる」など、食材を作る人、調理をする人の気持ちを考える児童が増えた。また、日本文化に米が深く関わっていることに気付き、米食を守っていくことの必要性について考えを深めることができた。国語の「和の文化」の調べ学習でもこの気付きを生かしていくことができていた。 ・地産地消への意識の高まりなど、活動を通して得たことを、児童が日常生活に生かしている。 ・オリジナル弁当を、自分たちで考え、自分たちが作り上げる過程で、今年度学校では難しかった調理を家庭で体験できた児童が多かった。 ・弁当作り、弁当発表（感謝祭）の企画・進行をクラスで協力して行う中で、相互理解が進み、友達との連帯感と自己有用感が高まった。 ・販売に向けての主体的な取り組みを通して、自分たちの思うとおりに進まない体験、柔軟な思考によって課題を解決していく経験ができた。 |

| 〈今後に向けた「改善点」〉 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲の虫害は、年々深刻さを増し、特に今年度は収穫0であった。防虫ネットをかけて予防したにもかかわらず、このような結果になってしまった。バケツへ入れる土の量を増やす、バケツの場所を変える等、考えられる対策をとるよう来年度に引き継ぐ。 ・販売体験は、企業との信頼関係の中でスムーズに準備が行える。シティープロモーションの方々、廿日市市教育委員会の田村有樹子指導主事、そして株式会社A&C様との連携・信頼感を大切にしていきたいことが肝要である。活動においては、ねらいを児童にしっかり把握させた上で教員児童の動きをしっかりと考えて事前に指導しておく必要がある。 ・今回は初めての試みということで、株式会社A&Cの方に進めていただくことが多かった。児童のさらなる主体的な活動をめざし、チラシや販売チケット製作等、取り組みの幅を広げたり、地域・外部との連携を図ったりしていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、当初計画していた活動ができなかった。特に桶寿司作り体験は、今年度6年生の活動から5年生に移したところで中止となり、来年度に実施課題を残した。 ・当初予定していた活動ができないところはあったが、児童は様々な活動の中で課題解決をめざして話し合い、高め合いながらふるさと学習発表、販売と意欲的に活動に取り組んでいた。 |